広報やまこし

発行所 新潟県古志郡 山古志村役場 電話 竹沢局 17 23 78
印刷所 大川印刷所

主な記事
○六月定例村議会
○選挙人名簿の登録方法が変わる。
○村政を聞く会にどうぞ
○少なくなる小・中学生
○中学校の統合を考える

5 月 の 村 の 人 口　=44年5月末日現在=

世帯数	1,116	
人口	4,889	(男 2,399人 女 2,490人)
5月の住民移動	出生 4人 (男2・女2)	死亡 7人 (男2・女5)
	転入26人 (男9・女17)	転出 29人 (男18・11女)

六月定例村議会

教育費に千百万円を追加

国保給付 助産費を五倍に引き上げ

さる六月十九日に六月定例村議会が開かれ、総額千三百万円にのぼる本年度一般会計補正予算、助産費、葬祭費などの引き上げを主とした国保条例の改正、議会議員の期末手当支給に関する条例など十二の議案が提出され、熱心な審議が行なわれた結果、全議案を原案どおり決めて二十一日に閉会しました。

条例関係

①国民健康保険条例の改正

本年四月一日にさかのぼり、国保加入者に対する給付を大幅に改善しました。

その内容は、出産した場合に支給する助産費二千円を一万円に、出産後六か月間支給する育児手当金は二百円引き上げて、月額四百円にそれぞれ改めました。

また、死亡した場合の葬祭費は千円引き上げ三千円にしました。

そのほか、保険料の減額の対象となる範囲を広くし、たとえば五人世帯で所得額が二十九万円までだったものが、三十二万円まで減額の対象になることになりました。

②議会議員の期末手当支給に関する条例の改正

議会議員に支給している期末手当を、六月一日から一般職員に準じて年三回支給するように改めたもので、支給する月と率は次のとおり。

三月　報酬月額の五〇%
六月　〃　九〇%
十二月　〃　一九〇%

補正予算

種苧原に教員住宅を新築

①昭和四十四年度一般会計補正予算（第一号）

歳入歳出ともに千三百七十万円を追加して、予算総額は一億六千六百七十万円となりました。これは前年度の同じ時期に比べ一七%の伸びとなっています。

歳出は教育費の追加が中心で、総額の八〇%に当たる千九十九万円を占め、その主な内容は種苧原小・中学校の教員住宅の新築費七百六万円、種苧原小学校プールの浄化装置の取りつけ百五十万円のほか、各学校や教員住宅の修繕、改造経費百九十七万円などとなっています。

土木費は百三十三万円で、古い宇賀地橋の取りこわし、村上橋の護岸工事費などの八十六万円、大型トラックの行けない地域の道路の砂利敷のための、小型トラックの借料十四万円、製図用機械の設備費十一万円などが、主な事業費となっています。

消防費では木籠に配置する消防ポンプの購入費三十六万円を計上しました。

そのほかのものでは、保育所の遊具購入費五万円、虫亀下平地内の地すべり応急復旧費二十五万円、積立金は財政調整に二十七万円、統合中学校建築準備に二十三万円などとなっています。予備費では四十一万円を計上し、民生費では国民年金印紙購買基金への繰出金などを六十万円減額しました。

これに対する財源としては、地方交付税の五百万円を柱に国庫補助金三百六十九万円（教員住宅建築に三百三十五万円、消防ポンプ購入に十万円、地すべり復旧に二十四万円など）寄付金二百万円、前年度からの繰越金三百万円、各種積立金の利子五十万円などを追加し、繰入金、雑入など六十万円を減額したほか、すでに決っている予算を節約して財源にしました。

地元寄付金は二百万円

寄付の受け入れ

各部落から申し入れのあった、総額二百万三千円の条件付き寄付金を、本年度一般会計に受け入れることになりました。村財政の都合でやむなく地元のみなさんのご負担をいただいたもので、寄付の条件と金額は次のとおりです。

種苧原小・中教員住宅の新築、百五十五万円
種苧原小、プール浄化装置、三十三万円
虫亀小学校の教員住宅の増築、六万円
木籠、可搬式消防ポンプ購入、六万二千五百円

②四十四年度国保特別会計補正予算（第一号）

国民健康保険の給付内容を引き上げたため、前年度繰越金を財源として百二十六万円を追加したもので、予算総額は三千七百九万円になりました。

歳出は助産費、葬祭費などを追加したほか、予備費に七十二万円を計上して不測の出費に備えました。

③四十四年度竹沢診療所特別会計補正予算

医師の出張旅費や機械器具の購入費に充てるため、二十七万円を追加したものです。これでこの予算の規模は八百二十三万円となりました。

宇賀地橋が完成

梶金と木籠、小松倉方面を結ぶ村道にこのほど新しい永久橋が完成し、自動車が安心して通れるようになりました。総工費540万円で、昨年8月から着工していたもので延長18m幅員4mの鉄鋼づくり、赤い橋げたが谷あいの緑と調和して美しく輝いています。

登録は住民台帳が条件に

公職選挙法の改正……七月二十日から

公職選挙法の一部が改正され、七月二十日からは住所を有していても、住民基本台帳に登録されていなければ、永久選挙人名簿に登録することができないように改められました。

選挙人名簿

いままでは、年四回（三月、六月、九月、十二月）に限り、本人の申し出にもとづいて選挙人名簿に登録されましたが、七月二十日からは、山古志村に住み年令満二十歳以上で、住民基本台帳に引き続き三か月以上登録されている者を、選挙管理委員会が調査して職権で登録することになったものです。

これにより、今月二十日からはとくに選挙人名簿の登録申し出はする必要がなくなりました。登録の方法は次のとおりです。

定時登録　選挙管理委員は、毎年九月一日現在で登録資格のある者を調査して、十日までに選挙人名簿に登録します。

臨時登録　選挙管理委員会は、選挙が行なわれる場合は定時登録のほか、さらに臨時に登録を行ないます。

名簿に登録されていても 住民登録がないと失格します

この改正にともない、すでに選挙人名簿に登録されている者でも、七月二十日現在で住民登録がしていない場合は、選挙人名簿から落されますから、とくにご注意ください。

このため、山古志村に住んでいる方で、まだ住民登録届の済んでいない方はすぐ役場（出張所）で転入届を済ませてください。

もし、名簿から落されてしまってから手続きをしても、その日から三か月を過ぎた後にくる登録期までは、登録されないことになります。

転出後は四か月でまつ消

選挙人名簿に登録されている者が、他の市町村に転出した場合は、転出した日から四か月を過ぎると、選挙人名簿から自動的にまつ消されます。

住所の移動は まず届出を

住民基本台帳の制度は、村民の住所に関する基礎となるもので、選挙、年金、国保、保健衛生など住民生活を営むうえで、欠くことのできないものです。

転入、転出など住所の移動の場合は、まず届出を行なうことが大切です。

村長と話しあいましょう

村政を聞く会にどうぞ…

社会教育活動の一つとして、先月に引き続き"村政を聞く会"を開催します。

村の政治は村民の幸せを高めるためにあり、それを行なう役場の仕事は村民の日常生活と深く結びついています。教育、社会福祉、土木、産業、衛生、消防などすべて、わたしたちのくらしにつながっているものばかりです。

そして、これらの仕事は村民の手によって選挙された代表者（村長、議会議員など）によって方針が決められ、職員の補助によって行なわれているわけです。

いいかえれば、村政のよしあしの最終的な責任者は村民自身にあります。

日ごろみなさんが思っている村政に対するご意見、ご要望などが村政に反映するとともに、正しい政治意識を高め、村の仕事に対する理解をより深めていただくため、お気軽に多数ご参加くださるようお待ちしています。

役場側からは村長、助役をはじめ教育長、各課長、地区公民館長等が出席して村の方針などを説明し、みなさんのご質問などにお答えすることになっています。

村政を聞く会の日程

月日	時間	会場	参集範囲
7月7日	2時～5時	虫亀小学校	虫亀
7月16日	10時～12時	芹坪小学校	小松倉
7月16日	2時～5時	梶木小学校	梶金、木籠
7月22日	2時～5時	種苧原小学校	種苧原
7月24日	2時～5時	池谷小学校	池谷、楢木 大久保

真の農業者代表を選びましょう

7月15日 農業委員選挙 投票日

投票時間　午前7時～午後6時

大雨がねらっています!!

大雨はおもにツユの終りころにくる傾向があります。

とくに、ことしは異常気象が続くうえ、七月には局地的な豪雨があると、新潟気象台の警告が出されています。被害を未然に防ぐため日ごろからの対策を怠らないことがかんじんです。

最近はホースで水を運ぶため、用水路の管理がおろそかになりがちです。耕地の決壊やニシキゴイの流出山くずれによる人命事故などを防ぐため、改めて周囲を点検してみましょう。

▼日本脳炎の予防接種

日本脳炎の心配な季節になりました。次の日程で予防接種を行ないますから必ず受けてください。この病気は蚊によって伝染する病気で、かかると三〇%～五〇%は死亡し、死をまぬがれても手足のマヒや精神障害を残す悪質な病気です。

予防には……
1 予防接種を必ず受けること。
2 蚊に刺されないようにする（とくに夜間睡眠中に注意する）
3 炎天下に無帽での仕事や遊びを避け、睡眠を十分とること。

日本脳炎予防接種

会場	実施月日 1回目	実施月日 2回目	時間	対象者	料金
池谷小学校	7月7日	7月14日	1時半～3時	満3才以上の幼児 小・中学生 おとな	1回分150円 今までに受けたことのある者は1回分を、はじめての者は2回分を徴収します。ただし幼児と大正3年から明治38年生までの者は無料です。
虫亀小学校	7月8日	7月15日	1時半～3時		
種苧原小学校	7月9日	7月16日	1時～3時		
芹坪小学校	7月10日	7月17日	11時～12時		
梶木小学校	7月10日	7月17日	2時～3時		
竹沢小学校	7月11日	7月18日	1時半～2時半		

▼胃ガンの集団検診

胃ガン検診車による胃ガンの集団検診を行ないます。恐ろしい胃ガンも、早く発見して早く治療すれば予防できる病気です。一年に一回は必ず検診を受けましょう。

検査を受けられる方は当日は朝目がさめてから検査が終るまで、いっさい飲まず食わずで検査会場においでください。

胃ガン検診

実施月日	時間	会場	備考
7月24日	朝 7時から	種苧原出張所	検査料1人600円を当日徴収しますから、ご用意ください。
7月25日	朝 6時から	虫亀小学校	
7月25日	朝8時半から	山古志村役場	
7月26日	朝 8時から	山古志村役場	

▼就職資料コーナの利用を

長岡公共職業安定所に就職のための資料や、求人個票などをそろえ、だれでも自由に利用できるコーナーが開設されました。

職をさがしている人はお気軽にどうぞ……。

水への誘い
用水堀・ため池に近づけぬよう

少なくなる小・中学生

十年間に六百五十人も減少

――学校基本調査の結果から――

文部省の指定統計調査として、毎年五月一日現在で学校基本調査が行なわれていますが、ことしの結果がまとまりましたので、あらましをお知らせします。

これによると児童・生徒数は小学校が三十二学級で五百四十四人、中学校が十九学級、四百五人で、前年に比べると小学校が七十四人、中学校が二十二人それぞれ減っています。

また、中学校卒業後の状況は、男女合わせて百五十五人卒業したうち全日制高等学校に進学した者は一五%、就職した者は八一%で、そのほとんどが村外に転出しています。

近年は農村人口が都市に対して激しく動くうえ、出生率の低下も加わり、小・中学校の就学人口が少なくなり、いわゆる過疎現象が学校教育の面にも影響し、いろいろな問題を引きおこしています。

子供は少なめに生んで高い教育を……という先進地なみの考え方に変わり出生数が減り、さらに都市への転出という社会減少により、年々少なくなるわけです。

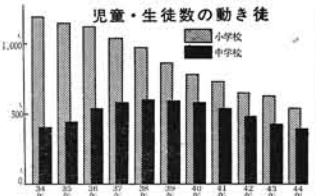
山古志村においてもこの現象は激しく、十年前の昭和三十四年と比較すると児童、生徒数は六百五十五人も少なくなっており、今後もさらにこの状態は続くものと考えられます。

社会の進歩、発展にともない、教育の問題はますます重要さを増しています。

この調査の結果が、少しでも村の学校教育を考えるうえで参考になれば幸いです。

児童・生徒と教員の数

学校名	学級数	児童・生徒数 男	女	計	教員数	教員1人当り児童生徒数
		人	人	人	人	人
種苧原小学校	6	96	91	187	9	20.8
虫亀小学校	6	33	50	83	7	11.9
池谷小学校	6	35	44	79	7	11.3
竹沢小学校	6	63	61	124	8	15.5
梶木小学校	5	26	19	45	7	6.4
芹坪小学校	3	12	14	26	5	5.2
（小学校計）	32	265	279	544	43	12.7
種苧原中学校	5	64	81	145	9	16.1
山古志中学校	3	42	46	88	10	8.8
〃虫亀分校	3	28	31	59	5	11.8
〃池谷分校	3	23	24	47	6	7.8
〃竹沢分校	3	15	27	42	5	8.4
〃東芹坪分校	2	15	9	24	3	8.0
（中学校計）	19	187	218	405	38	10.7
合計	51	452	497	949	81	11.7



五学級が 複式で勉強

小学校は六校で、児童数のいちばん多いのが種苧原小学校の百八十七人で、次に竹沢小学校の百二十四人となっています。

少ないのは芹坪小学校の二十六人で、複式により二学年ずついっしょに授業を行なっており、梶木小学校は四十五人の児童数のうち二年生と三年生がいっしょに勉強しています。

一学校当たりの平均児童数は九十一人、一学級当たり十七人と小規模になっています。

中学校は六校で、そのうち独立校舎を持つのは種苧原中学校だけで、山古志中学校は分校四校を含め、すべて小学校と併設されています。

生徒数は種苧原中が五学級・百四十五人のほか、山古志中はすべて百人以下となっている。とくに芹坪分校は生徒数が二十四人のため、一年生と二年生の複式学級となっています。

山古志中学校は分校を含めた生徒数は二百六十人で、一学校当たり平均生徒数は五十二人、一学級当たり十九人となり、小規模のうえ小学校と併設による教育効果のマイナス点を考えるとき、学校統合の必要なことがわかります。

養護教員は三百人に一人

教員数は小学校が四十三人、中学校が三十八人で合計八十一人で、前年より中学校で一人少なくなっています。

これは教員一人当たり小学校は十二・七人、中学校は十・七人の児童・生徒を受け持ち、また、そのうち養護教員数は三人で、一人当たり平均三百十六人を受け持っていることになります。

声のひろば

問　先日、住民課に妻の印鑑証明書をもらいに行ったら「本人でない場合は委状任がいるから……」ということで、もらうことができませんでした。私は官庁のサービスの向上が要求されているときに、不親切に思いてなりません（二丁野 TH生）

答　昔から「印鑑は首と引き替え」などといわれており、わたくしたちの財産は印鑑によって守られているともいえましょう。妻やこどもが勝手に夫や親の印鑑を持ち出して、気軽に他人の保証人になったりして後悔してもあとの祭りでどうにもならないなど、印鑑に関する事件はよくあることです。

印鑑事務はこのようにとても重要な意味を持っています。村民のみなさんから安心して印鑑事務を任せていただけるため、役場では厳格な取り扱いをするのが、本当のサービスであると考えているわけです。（住民課）

農業に従事した者は十五人

進学率は四六・五パーセント

中学校卒業後の状況についてみると、本年三月の卒業者は男六十七人、女八十八人、合計百五十五人で、そのうち高等学校（定時制も含む）に進学した者は七十二人で、進学率は前年より四・九%多い四六・五%であるが、他市町村に比較して非常に低い。昭和四十一年度に比べて一六%と大きな伸び率を示してはいるが、まだ昨年の県平均七一%には相当の差があります。

これは冬期間の交通が完全に確保できないこと、これにともない下宿などの経済的負担が多くかかるなどが主な原因と考えられます。

就職した者は全体の八一%に当たる百二十六人で、そのうち九十人が県外に、二十人が県内の他市町村に就職しており、山古志村に就職した者は家業に従事している者を含め、わずか十六人で、若い労働力がどんどん村外に流出しています。また、県外に就職した者の三六%に当たる三十二人が東京に就職し、続いて神奈川二十五人、埼玉八人などとなっています。

就職者の五七%の七十二人が製造業につき、その主な内訳は女子の繊維や衣服の製造に二十九人、電気機械器具製造十五人などとなっており、続いて農業十五人、以下卸・小売業、サービス業などの順となっています。

働きながら定時制高校に進学している者は、就職者の三九%に当たる四十九人となっています。

また、就職先の事業所の大きさ別にみると、従業員数二十九人以下の小規模な事業所に就職した者が四八%、三百人以上の大規模な会社などに就職した者が三九%となっています。

今月の税金

固定資産税 第2期分の納期です

31日までに忘れずに納めましょう

税金は督促手数料や延滞金など余分の負担がいらないうちに納めましょう。

国民年金保険料も納期です

○納入額は七月～九月分までで次のとおり
35歳未満七百五十円
35歳以上九百円

たばこは村で買いましょう

中学校統合を考える

こどもたちの願いは切実

「中学校は早く統合しなければならない」「いや、場所が問題だ」「冬はどうするのか」……。山古志中学校の統合について、いろいろな意見が出されています。

中学校を統合することは村にとって大事業であり、それだけに慎重を期しているわけです。

もし、村民のみなさんが統合に反対されるようなことがあれば、もちろん実現することはできません。このため、これを円満に遂行するために部落ごとにこん談会も開いていきたいわけです。では、どうして中学校を統合する必要があるのでしょうか。大切な問題ですから、ここでみなさんといっしょに改めて考えてみることにしましょう。

中学校の統合はなぜ必要でしょうか

結論をいうなら、とりもなおさず、みなさんのかわいいこどもさん自身のためであり、ひいては村全体のためなのです。

現在、村には独立した校舎を持つ種苧原中学校のほかに、山古志中学校とこれに虫亀、池谷、東竹沢、芹坪の四つの分校がありまます。生徒数は本校、分校とも百人以下で、学級数も三学級以下のいわゆる小規模学校のうえ、校舎は小学校と同居している状況です。

この小さな山古志中学校をまとめて、大きなものにしようというのが中学校の統合です。それでは、小規模で小学校と同居しているための欠点や、統合してどんな利点があるか考えてみましょう。

小学生と同居ではこんな点にマイナス

小学生と中学生では、それぞれ成長や知識の発達程度に差があります。これが小、中一つの学校では生徒の精神的な面や学習面に、次のような悪い影響を与えることになります。

① 中学生になっても校舎が変らず、同じ小学生といっしょでは、中学生になった誇りも感激もなく奮起するクギリがない。

② こどもらしさがぬけ切れず、いつまでも小学生のように依頼心が強く、自主性がなく責任感に乏しい。

③ 中学生として必要な授業や、静かなしかも活発な学習ができない。

④ 設備などが小学校と共用のため、クラブ活動が思うようにできない。

⑤ 特別教室がなく実験や実習などが十分にできない。

⑥ 中学校独自の行事ができない。

教育の内容と能率が向上します

中学校の教科は九つもあります。このほかクラブ活動などの特別教育活動もいくつかあります。

いまの中学校は勉強する内容が非常に程度が高いため、先生も専門教科の免許状を持っていなければならず、専門外のものは教えることができないことになっています。ところが山古志中は学級数が少ないため、先生の数も少なく、専門外の、つまり免許状を持っていない教科でも、特に県から許可をもらって教えている現状です。

これでは、どう考えてもりっぱな勉強ができるわけがありません。

いまのままでは十分な教育効果が期待できない

これでは生徒たちがかわいそうです。先生も負担が重くなるばかりで専門の教科さえも研究するヒマがありません。

戦後中学校を義務教育にしてりっぱな村民、りっぱな社会人を育て上げるように変っても、現在のままでは十分な教育効果は期待できないわけです。

このため、統合すれば先生が一校にまとまり、学級数も増えるので、ほんとうの専門教科だけ教えることができることになります。

経営が合理化されて経費が少なくてすみます

きょ年山古志中に使われた経費は次のとおりです。この中には統合して一つになれば節約できる経費を多額に含んでおります。

山古志中　六十二万円
虫亀分校　五十一万円
池谷分校　四十七万円
東竹沢分校　四十五万円
芹坪分校　三十九万円
合計　二百四十四万円

このように五校にわかれているときに使う経費を、そのままそっくり統合中学校に使えば、設備や備品はとても充実できることになります。そして恵まれた環境で豊富な教材によって中学校にふさわしい勉強ができます。

部落意識がなくなり連帯感が深まります

合併前の旧村意識や部落感情がともすると露骨に出ることは、中学校統合問題に限らず、あらゆる場合に頭をもち上げてきており、村の発展を考えるとずいぶんソンな話です。

同じ中学校でみんなといっしょに学ぶようになれば、こうした部落感情などは生れないと思います。

いっしょに学び遊んだときの喜びや悲しみの思い出は、成人してからのちもお互の心を一本に結んでゆくはずです。これは、本当の意味で将来の村をになう村民の誕生といえましょう。

統合校舎の位置は大きな立場で

いちばん問題になるのはやはり校舎を建てる位置だと思われます。村の中心から離れている部落では、とくにこの点に非常に深い関心があるわけで「統合は原則的には賛成だが、場所によっては反対だ」という意見も一部にあります。

統合すればいままでより通学距離が遠くなる部落はもちろん出ます。冬期間は寄宿舎生活しなければならない生徒も出てきます。このため、位置に強い関心をしめされるのはしごく当然のことと思います。

しかし、日増しに進歩する世の中に、かわいいこどもを送り出すときのことを考え、大きな立場で改めて中学校の統合問題を考えてみましょう。